

学校名	みやき町立中原中学校		
1 前年度 評価結果の概要	・保護者及び生徒アンケートでは、すべての項目について肯定的な回答が過半数であり、おおむね好意的な評価を得ることができた。 ・コミュニティスクール2年目にあたり、昨年度の反省をもとにコロナ禍で薄れていた地域や保護者と連携した活動を、コミュニティ・スクール活動の一環として再考し、実施できた。 ・本校の課題である不登校生徒への対応において、別室（スペシャルサポートルーム）の設置や、他機関との連携、職員の組織的な取組など、大きく前進した。 ・PTA入会を任意性したことにより、本当に必要な活動を考え実行することができた。また、職員の負担軽減にもつながった。 ・教職員の働き方改革の推進のため、衛生管理委員会等を活用し、業務の見直しを図ることで全職員が意識した取組を行うことができた。 ・次年度も継続して、主体的な学びに向けた授業改善、特別支援教育や不登校生徒への対応を含めた生徒指導、PTA改革、働き方改革に全職員で取り組む。		
2 学校教育目標	ふるさと中原と共に輝く志をもった生徒の育成 ～自律・協働・挑戦をキーワードとした学校づくりを通して～		
3 本年度の重点目標	○ 生徒一人一人に「自己指導能力」を身につけさせる生徒指導の推進 ○ 学力向上のための取組の充実・発展 ○ 「地域とともにある学校」の充実 ○ 生徒に「絶対的な安心感」を与える教育環境の整備 ○ 「学校組織力」の維持・強化と「働き方改革」の推進		

4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○「自ら学びに向かう生徒の育成」のための指導方法の工夫と授業の実践	○12月に行う生徒アンケートにおいて、「協働学習やICT（タブレットやインターネット）を通して、学びたい気持ちが高まった。」の項目において、肯定的な解答が82％以上（昨年度82. 6％）	・「中原型情報活用モデル」を通して、授業実践を行う。 ・校内研究会において、実践を共有する。講師の先生を招き、協働学習やICTの活用方法の研修を行う。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート調査で「いじめ・差別・暴力のない学校」と回答した生徒90％以上（昨年度88. 4％） ○アンケート調査で「友だちに思いやりの心をもって行動している」の項目で肯定的な回答をした生徒90％以上（昨年度86. 1％）	・年度初めに道徳や学活の時間を使って、いじめのおこらないような学級、学年づくりに取り組む。 ・スクリーニング、教育相談等を活用して、心のSOSの早期発見を行う。 ・人権週間（人権集会）や平和集会、「いのち・生き方を考える日」において、生徒主体の取組を行う。 ・生徒朝会において全校で「いじめ撲滅宣言」を唱和し、人権感覚を磨く。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○アンケート調査で「いじめ・差別・暴力がない学校になることを目指して指導している」と回答した教員90％以上（昨年度100％） ○アンケート調査で『生徒に「役割・出番」を与え、「承認」することを意識した指導を行っている』と回答した教員80％以上（昨年度100％）	・生活アンケートの情報共有の徹底。 ・道徳の授業を通し、道徳性を育成する。 ・学校行事や生徒会活動で生徒がより主体的に取り組む場を用意し、「役割・出番」→「承認」→「成長」というサイクルを実践することにより、生徒に達成感・成就感、自己肯定感をもたせる。 ・発達支持的生徒指導の推進を図り、主体的な選択や決定を促し、自己指導能力を身に付けさせる。
	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80％以上（昨年度85. 8％） ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80％以上（昨年度81. 9％）	・学級活動や総合的な学習の時間等で、生徒に夢や目標を考えさせる場面を設定する。 ・職場体験学習や、高校調べ、職業講話等を通して、進路に対する意識を高める。 ・各種体験活動では、生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・ナーミー活動（中原ふれあい教育を進める会）を中心に、地域との交流を深める。 ・各種行事において、生徒が主体的に活動できるよう機会を設定するとともに、生徒のリーダー性を育めるよう生徒への働きかけを行う。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80％以上（昨年度86. 8） ○「早寝・早起き・朝ごはん」を呼びかけ、生徒達成率80％以上（昨年度79. 4％）、保護者達成率90％以上（昨年度89. 3％） ○毎日の食事について、「毎日3回食事をする」児童生徒80％以上（昨年度90. 6％） ○給食後の歯みがきの励行を呼びかけ、生徒の達成率80％以上（昨年度15％）	・アンケートにより、実態把握を行う。 ・アンケートの結果より、改善の必要があると思われる生徒には個別で保健指導を行う。 ・集会等で「生活習慣」や「食習慣」の保健指導を行う。 ・栄養教諭による給食指導を行う。 ・保健だよりや掲示物等で啓発活動を行う。 ・生徒会で食後の歯みがきを呼びかける。 ・生徒の歯を健康に保つために、フッ素に関する取組を行う。 ・歯科衛生士による歯みがき講話を行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・週1回の定時退勤日を水曜日と設定する。 ・夏季休業中及び冬季休業中に学校閉庁日を設定する。 ・週2回、部活動休養日を設定する。 ・チーム担任制を導入し、職員間で協働する意識をもたせる。 ・会議や配付物等において、ペーパーレス化を更に進める。 ・教務主任と連携して時間割を工夫することで年次休暇取得を進める。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員90％以上（昨年度73. 6％） ○教員対象の特別支援教育に関する研修年2回以上実施	・特別支援教育の職員研修を行う。 ・特別支援教育についての郊外における研修の内容を共有する。 ・毎月の生徒指導委員会内で特別支援教育に特化した内容の協議をする。 ・教室のUD化を実施する。 ・巡回相談や支援会議等を積極的に実施する。 ・関係機関との情報共有と支援内容の充実させる。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
重点取組			具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○生徒指導	○生徒指導・教育相談体制の充実	○教育活動の中に、開発的生徒指導の手法を積極的に取り入れ、アンケート調査で『生徒に「役割・出番」を与え、「承認」することを意識した指導を行っている』と回答した教員80％以上（昨年度100％） ○生徒の課題解決・自己実現に向け、年2回の教育相談の実施 ○生徒の情報交換を密にするため、組織力を強化し、週1回の生徒指導委員会の実施 ○学期ごとのスクリーニング会議の開催	・節目節目の黄金の1週間や、「役割・出番」→「承認」→「成長」というサイクルを教育活動全体で実践する。 ・年2回の教育相談を実施するとともに、気軽に相談できる雰囲気づくりに努め、不適応や不安を抱えた生徒の早期発見に努める。 ・SCやSSWおよび関係機関と連携し、早期に対応する。 ・毎週生徒指導委員会を開催し、必要に応じてSCやSSWにも参加していただき、生徒の情報交換を密に行うことにより早期解決を図る。また、必要に応じてケース会議を実施する。 ・スクリーニング会議を開くことで、要配慮生徒の把握や支援についての共通理解を図る。 ・SSR（スペシャルサポートルーム）を活用し、生徒の困り感に対応する。 ・不登校生徒の個別の支援計画を作成し段階的に登校ができるようSSRを活用しながら支援を図る。